

PICASSO

Odes to Nature

ピカソ いのちの讃歌



2023 10.24 TUE – 2024 9.23 MON

[開館時間] 10:00–17:00 *入館は閉館の30分前まで

[休館日] 月曜日 (ただし、月曜日が祝日の場合は開館)、年末年始

主催・会場：ヨックモックミュージアム

後援：港区教育委員会

特別協力：株式会社ヨックモック



公式サイト



Official Site



PICASSO

Odes to Nature

ピカソのセラミックの作品には、ピカソ自身を取り巻いていたさまざまな生きもののいのちの姿が、そこかしこに見えています。ピカソのセラミック作品の大きな特徴である「明るさ」「親しみやすさ」には、これらのいのちが輝く姿にも理由があるかもしれません。

本展では、あふれる「生命力」の根源となる、生きとし生けるものに対するピカソの深い愛情と共感を、さまざまなモチーフを手がかりに掘り下げます。

彼が生きた時代は、大小の戦争や流行病など、現代と同様、理不尽に多くのいのちが失われた時代でもありました。死を強く恐れていたピカソにとって、第二次世界大戦の終結は大きな喜びであり、いのちの勝利でもあったでしょう。戦後まもなく故郷のスペイン・マラガと地中海を共有する南仏に移り、セラミックに熱中する中で、ピカソはさまざまな生きものをモチーフとして取り上げます。



本展は、岡村多佳夫氏(美術史家)、町田つかさ氏(和泉市久保惣記念美術館学芸員)の2名の監修により、闘牛、鳩、梟(ふくろう)、小さな生きものたち、さらに、有限の生命を超えていく存在である最後の女神ジャクリーヌに至る、モチーフから見る全5章で構成されます。闘牛では「マドール(正闘牛士)」よりも「ピカドール(槍士、槍で牛を突いて弱らせつつ闘争心を煽る)」に憧れ、愛娘にパロマ(鳩)と名付け、さらに小鳥やバツタなどのささやかないのちこそ優しい眼差しを向けたピカソがそこにいます。

いのちがきらめくさまを見つめ、いのちの向こう側に輝くものまでも陶土の上に表現しようとした、ピカソの思いをご覧ください。

📌 催事案内

記念講演会、ギャラリートーク、ラーニングプログラム「ピカソ de アート」、学校連携プログラム等を開催します。最新情報は公式サイトをご確認ください。

最新情報



1.《ピカドール》A.R.289 1955 / 2.《鳥型の水差し》A.R.186 1953 年 4 月 4 日 / 3.《闘牛の太陽》A.R.199 1953 年 9 月 25 日 / 4.《森鳥》A.R.542 1968 年 / 5.《鳩》1954 年 6 月 7 日 / 6.《ウニ》A.R.268 1955 年 3 月 31 日 / 7.《枝にとまるバツタ》A.R.258 1955 年 / 8.《グリッドのある顔》A.R.352 1956 年 / 9.《イーゼルの中のジャクリーヌ》A.R.333 1956 年 すべてパブロ・ピカソ作 © 2023 - Succession Pablo Picasso - BCF(JAPAN)



チケット(税込)

一般	学生	小学生以下
¥1,200	¥800	無料

*10名以上(15名まで)の団体は各200円引き

*障がい者手帳をご提示の場合、ご本人と付き添いの方1名は無料

*学生の方は、学生証等の在籍が確認できるものをご提示ください。

YOKU MOKU MUSEUM
ヨックモックミュージアム

〒107-0062 東京都港区南青山 6-15-1 TEL 03-3486-8000

[アクセス]

東京メトロ表参道駅 B1 出口より徒歩 9 分 / 渋谷駅東口 51 番のりば

都営バス「01 系統」乗車「青山学院中等部前」下車徒歩 1 分

*駐車場はございません。

@yokumokumuseum

@yokumoku_museum

